

(様式2)

2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 静岡県立富士宮東高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	対象：全学年(509人) 参加人数：16人(うち、主たる運営4人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名() ② 行事名() ③ その他(○) (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	(1) パラリンピック競技であるボッチャを体験することで、オリンピック・パラリンピック競技に興味を持つ。 (2) 誰でも参加できる競技を体験することで、インクルーシブ社会の担い手としての意識を高める。 (3) 生徒会役員が企画・運営を行うことにより、自ら考え、積極的に行動する力を身に付けるとともに、リーダーシップを養う。
5 取組内容	全校から希望者を募り、ボッチャの講習会を12月14日(火)に実施した。 令和元年度の本事業では、静岡県ボッチャ協会から講師を派遣いただき、生徒会役員がボッチャの講習を受けた。その後、生徒会が全校生徒対象のボッチャ講習会実施を計画した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、生徒対象のボッチャ講習会は中止となった。令和2年度からは、1年生が「総合的な探究の時間」で、手話や視覚障害者のガイドヘルプなどの共生社会の実現に向けた学びの中で、ボッチャを短時間体験した。 生徒会役員が、上級生が実現できなかったボッチャの講習会を実現させたいと計画を立てて、全校から希望者を募った。

	
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 参加生徒は、実施後のアンケートで、ボッチャについて、「障害や不自由な部分があってもなくても、誰でも楽しめる競技だった。」と受け止めていた。ボッチャは年齢や身体能力を問わず参加できるユニバーサルな競技であり、チームで戦うのでチームメイトとの同僚性の向上を感じ、個人としては空間把握能力の向上や、戦略を立てることの面白さを感じていた生徒が多かった。</p> <p>(2) 主催した生徒会役員は、計画を立案してから実施に至るまでのプロセスが大きな学びとなった。新型コロナウイルス感染症のため、文化祭などの大きな学校行事は中止や大幅な変更を余儀なくされ、現在1・2年生の彼らが主体的に行事を計画して実施する機会はほとんどなかった。計画から実施に至るまでに、どれだけの人に理解を得て、会場や道具を手配し、どのような手段で広報を行うのかという一連の過程を実践的に理解したことは大きな成果であった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 単なる競技の体験に留まらないよう、募集や説明会で生徒会役員により目的の周知をした。</p> <p>(2) 当日は観戦していた生徒がいたので、生徒会は、競技の進行状況に応じてその場で参加を促すなど、広くボッチャを周知するための工夫をしていた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>(1) 全校生徒への周知が遅くなったことは課題であった。顧問と連携して学習支援クラウドサービスなどを用いて広報をするなどの工夫が必要であった。</p> <p>(2) 本校は、「学校観戦連携プログラム」に参加しており、東京2020大会の男子MTB競技を観戦している。このことについて、本事業で、参加生徒や教員が事後の情報共有や全校への情報発信を行うことを検討した。しかし、東京2020大会開催と観戦についてはさまざまな意見があり、また、当時新型コロナウイルス感染症による地域の観戦レベルが高かったこともあり、生徒が主体となる発信を控えた。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度以降は、引き続き、総合的な探究の時間の中でボッチャについて体験していく予定である。</p>